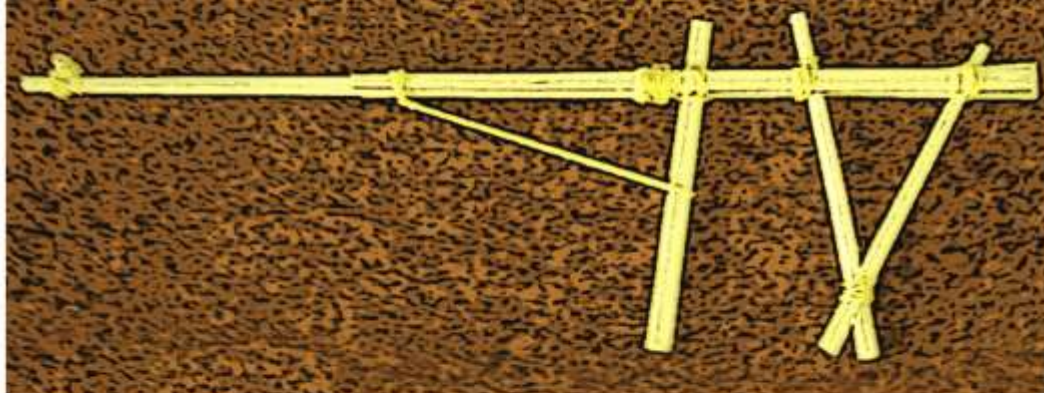


2009年度

南種子町郷土館 年報



〒891-3704 **南種子町郷土館**

鹿児島県熊毛郡南種子町中之下 1932-1

Tel.(0997)26-1030

目 次

館 沿 革	1
館 日 誌	2
1. 施設・設備	3
2. 事 業	4
①展 示	4
②展示の概略	5
③企画展	5
④資料収集活動	8
⑤新収蔵資料	8
⑥資料整理	8
3. 教育普及活動	9
①昔の子供の遊び体験教室	9
②民謡講座	10
4. 入館者数	11
5. 郷土館の組織	12
6. 研究論文	13

南種子町郷土館の沿革

昭和44年 2月28日：町立博物館設置準備委員を委嘱

昭和44年 3月 7日：第1回町立博物館設置準備委員会

昭和44年 3月25日：資料収集協力員と準備委員との合同会

昭和44年 4月14日：第2回町立博物館設置準備委員会

昭和44年 5月16日：第3回町立博物館設置準備委員会

昭和44年 6月 7日：第4回町立博物館設置準備委員会

昭和44年 9月13日：第5回町立博物館設置準備委員会

昭和44年11月 1日：旧ユースホステルの1室を使用し、「南種子町立南島民俗博物館」
として開館。

昭和44年11月17日：第6回町立博物館設置準備委員会（最終）

昭和61年 3月 5日：「南種子郷土館」として開館

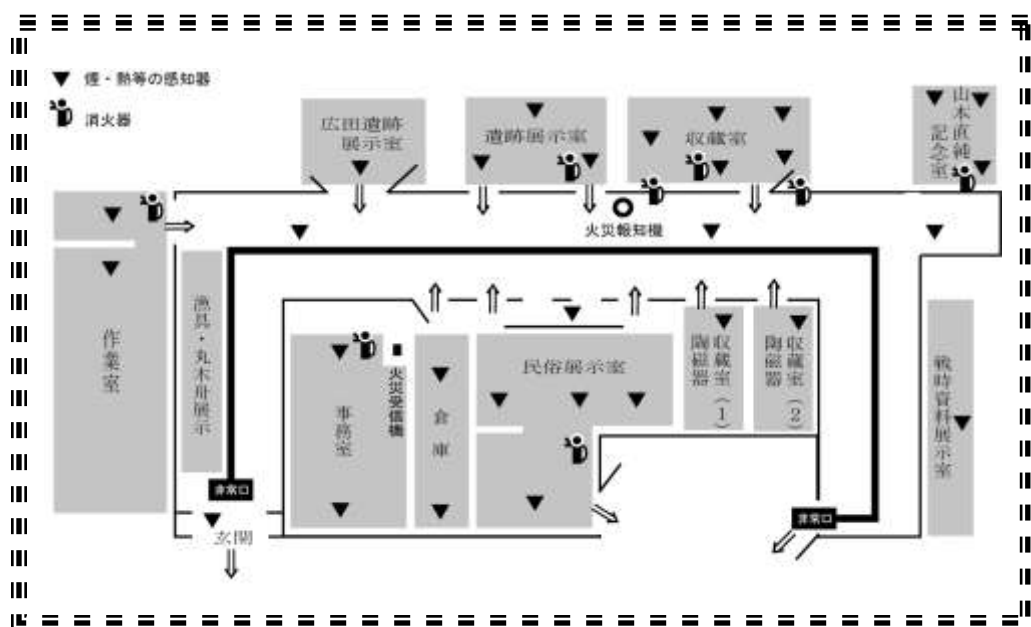
平成19年 2月 1日：旧郷土館の老朽化に伴い、旧公立種子島病院跡に一時移転して
開館

平成21年 4月30日：広田遺跡展示室改修工事

館日誌

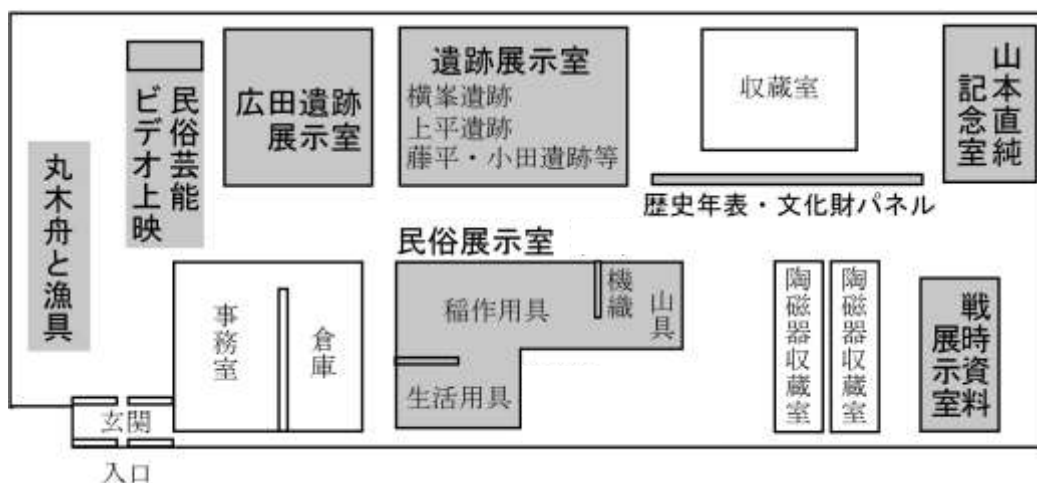
- H 2 1. 4. 3 宝満神社赤米お田植祭
5. 2 7 荃南小学校集団宿泊学習において、昔の子供の遊び体験教室指導
6. 2 企画展「広田遺跡出土展」についての会議
7. 1 8 博物館スタンプラリー開催
7. 1 9 広田遺跡出土品「国の重要文化財指定記念企画展」開催
7. 1 9 第1回 貝細工教室開催（講師：松田大児氏）
8. 1 6 下野敏見氏来館され、指導を受ける。
8. 1 6 第2回 貝細工教室開催（講師：松田大児氏）
7. 3 0 第3回 貝細工教室開催（講師：森真智子氏）
7. 3 0 島間老人会（婦人部）来館
- 1 0. 9 長谷小学校体験学習教室「割ばし鉄砲をつくって、あそぼう！」
- 1 1. 2 町ふるさと祭で、企画展「子どもたちに伝えたい昔の遊び」を開催
 ～3
- 1 1. 4 企画展「子どもたちに伝えたい昔の遊び」を郷土館で引き続き開催
- 1 1. 6 中平小学校（4年生）来館
- H 2 2. 1. 2 6 文化財保護審議委員会及び郷土館管理委員会
1. 2 7 長谷小学校（3・4年生）来館
1. 2 8 鹿児島県議会議員「上村勝行」氏来館
3. 1 1 下野敏見氏が来館され、指導を受ける。

1. 施設・防火設備及び避難経路



2. 事業

①展示



広田遺跡展示室



漁具・丸木舟展示室



山本直純記念室



民俗展示室

②展示の概略

旧病院跡を利用した展示で、限られたスペース内での展示となりました。

■丸木舟と漁具展示室

事務室前のロビーを利用して、漁具と丸木舟（2艘）を展示。丸木舟は1艘が通常のもの、もう1艘が南西諸島において現役で最後まで使用していた丸木舟（牛野春芳氏所有）で、それぞれの歴史や生活感の違いを感じて欲しいとのねらいで隣接し、比較展示としました。

■広田遺跡展示室

今回、広田遺跡の出土品が国の重要文化財に指定されたことを記念して、従来の広田遺跡展示室をリニューアルし、企画展を開催しました。

■遺跡展示室

広田遺跡以外の遺跡関係を展示。現在は横峯遺跡、上平遺跡、藤平・小田遺跡を中心に展示しています。（新たな遺跡が発掘されしだい、展示を入れ替えていく予定です。）

■民俗展示室

稲作に関する農具と住まいに関する生活用具を中心に展示。残りのスペースや壁面を利用して機織機、山の道具、桶づくりの道具なども展示しています。

■山本直純記念室

山本直純氏愛用の楽器・オーディオ機器・レコード・盾・賞状などの寄贈品の展示。また、山本直純氏との交流のきっかけとなったイベント「トンミーフェスティバル」についてもパネルで紹介しています。

■戦時資料展示室

町出身の「日高保清」大尉の軍服・勲章・遺書などの遺品を中心に展示しています。

③企画展

■広田遺跡出土品「国の重要文化財指定記念企画展」（7月19日～8月30日）



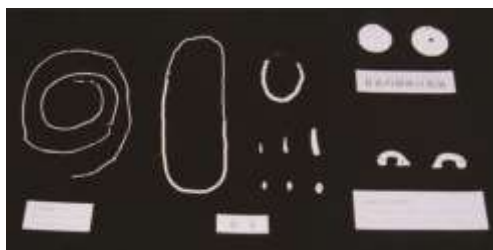
広田遺跡は、昭和32～34年と平成17～18年の2回、発掘調査が行われました。昨年（平成20年3月28日）の国史跡指定に続き、今回は平成17～18年の発掘調査で見つかった出土品（295点）が、国の重要文化財の指定を受けたことを記念して開催された企画展です。

「広田遺跡を体感しよう！」をテーマに、メインとなる展示室での広田遺跡出土品の公開をはじめ、貝の発掘体験、貝の造形や貝のキーホルダーづくりなどの貝細工教室、他にもジュニア

学芸員による展示資料の解説（7月19日）、火おこし体験、^{まがたま}勾玉や^{りゅうはい}竜佩（広田遺跡出土）づくりなど、もりだくさんのイベントを開催しました。

◎広田遺跡展示室

貝輪（貝の腕輪）・貝玉（貝の首飾り）
竜佩（竜を模ったもの）などの貝製品を
中心に展示、他にはお墓に供えられてい
た壺や甕などの土器類、頭蓋骨の複製品
なども展示しました。



◎貝の発掘体験コーナー



広田遺跡の発掘を体感してもらうためのコー
ナーで、エントランスに特設の砂浜をつくり、
中に埋めてある貝や広田遺跡の貝製品（レプリ
カ）の発掘を実際に体験してもらいま
した。背景には、南種子中学校美術部の皆さ
んが描いた広田海岸の風景画を飾り、さらに海
岸をイメージしてもらうために、波の音を BGM
で流しました。

また、発掘した貝は1人3個、レプリカの貝製品は1人1個、持ち帰ることができるようにしました。

◎貝細工教室

広田遺跡で出土した貝製品に因んで、貝の造形や貝のキーホルダーづくりなどの貝
細工教室を開催しました。（7月19日・8月16日・8月23日の計3回）
講師は、町内在住の松田大児氏と森真智子氏です。



◎火おこし体験&勾玉・竜佩づくり体験教室

屋外での体験教室として、古代の火おこし体験と勾玉・竜佩（広田遺跡出土）づくり体験教室を開催しました。



火おこし体験



勾玉・竜佩づくり体験



◎ジュニア学芸員による展示資料の解説

企画展オープニングの目玉として、ジュニア学芸員（町内の高校生）による展示資料の解説を行いました。（7月19日のみ）



■子どもたちに伝えたい昔のあそび（11月2～3日）



町のふるさと祭「展示発表会場」において企画展を開催。今回は、道具を使った昔の遊びに限定し、実際に作った遊び道具を展示しました。限られたスペースでしたが、普段とは違った遊びを体験してもらい、楽しんでいただけたと思います。

また、併せてルールやマナーを守ることによって遊びが成り立っていることや遊びを楽しむために、どんな工夫をしているかなど、遊びを通じて考えていただけたらと思います。

企画展は、その後、郷土館のエントランスで開催。



④資料収集活動

今後も町の広報紙での呼びかけや文化財保護審議委員からの情報提供をお願いしながら、資料の収集活動を行っていきます。

⑤新収蔵資料（平成21年度）

提供者	住 所	資料名（個数）
佐々木茂美	下 中	(蠅獲器) ハイトリック (1)・蚊帳 (1)・佐世保独楽 (1) 百人一首カルタ (1)
柳田 栄子	上 中	民謡カセットテープ (80) 聞き取り調査カセットテープ (48) ビデオテープ (15)
総務課 消防交通係	上 中	南種子村災害写真 (1) (昭和30年度以降 22号台風災害より)
古市 克人	中種子町 野 間	手作り写真集「種子島よかとこさがし」(1)
日高 直美	島 間	こま (2)
石堂 克人	上 中	平鍬 (1)
岩坪 徹	上 中	箱セイロー (1)・キンナメジュウ (3)
園田 貢	西 海	砂糖製造法教本 (1)
岩坪 陸男	西 之	西之地区の地図 (1) 明治41年の西之青年会議事録 (1)
新蔵 セキ	上 中	バリカン (1)・石ひき臼 (1)

⑥資料整理

旧病院跡に移転し、新たに展示された資料もいくつかあります。現在、各展示室別の台帳は完成し、今後収蔵室の資料を整理していく予定です。収蔵資料カード（目録）については約半分が整理済、1枚1枚写真を撮影しながら（以前はイラストを描いて整理していたが、今日のデジタルカメラの導入で、予算的に写真保存ができるようになったので）の資料整理ということで、時間が掛かりますが、少しずつ整理していきたいと思っています。

3. 教育普及活動

①昔の子供の遊び体験教室（南種子町自然の家）

平成21年5月27日、荃南小学校の集団宿泊学習での一環として、「カッタ」「割りばし鉄砲」「ブンブンごま」などの遊び道具づくりからその遊び方までの体験教室を行いました。思ったより遊び道具をつくるのに時間がかかり、実際に遊ぶ時間が少なくなっていました。



割りばし鉄砲



カッタ



ブンブンごま

平成21年10月9日、長谷小学校の体験学習で、昔の子供の遊び体験教室を行いました。前回の反省点を踏まえ、今回は遊びを「割りばし鉄砲」だけに絞って、遊ぶ時間をたくさんとれるようにしました。南種子中学校の職場体験生の手伝いももらいながら、誰が一番遠くまでとばすことができるかゲームやチーム対抗戦の的当てゲームなどを行いました。



割りばし鉄砲づくり



チーム対抗的当てゲーム

②民謡講座（５回）

今年度は、郷土館講座として民謡講座を開設しました。講師に平山 向井秋雄さんを迎え、 名の受講生が計５回の講座を受講されました。講座では、民謡独特のこぶしや素朴で温かみのある唄い方（表現法）に苦戦しながらも、毎回楽しく練習されていました。

また、練習だけでなく、１１月２日の町ふるさと祭では、その成果を披露し、大好評でした。



講座 練習風景



ふるさと祭での舞台発表（１１月２日）

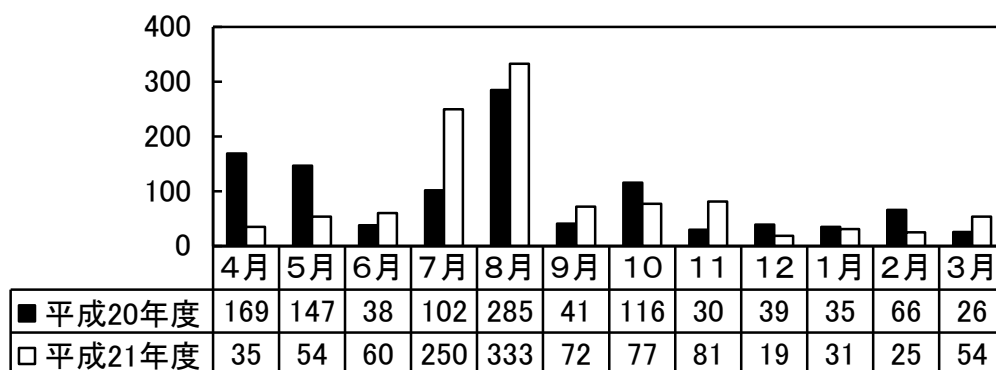
4. 入館者数

平成21年度 南種子町郷土館入館者数調査

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

分 類	小学生	中学生	高校生	大学生	一 般	計	町 内	町 外
4月	2	0	0	0	33	35	9	26
5月	2	6	2	1	43	54	35	19
6月	23	0	0	0	37	60	45	15
7月	41	6	10	4	189	250	102	148
8月	121	23	3	8	178	333	202	131
9月	22	3	0	2	45	72	47	25
10月	29	11	2	0	35	77	58	19
11月	52	2	0	0	27	81	63	18
12月	0	0	2	1	16	19	3	16
1月	10	0	0	0	21	31	17	14
2月	0	0	0	2	23	25	12	13
3月	10	0	1	12	31	54	17	37
計	312	51	20	30	678	1091	610	481

月別 入館者数の動向(前年度比較)



5. 郷土館の組織

■館長	岩屋秀男（教育長）
■次長	坂口浩一（社会教育課長）
■文化係	石堂和博 小脇有希乃
■管理員	豊島 巧
■管理員（補）	平島典男
■管理委員会委員長	羽生源志（文化財保護審議会委員長）
■管理委員会副委員長	長田泰生（文化財保護審議会副委員長）
■管理委員会委員	平野性賢（文化財保護審議会委員）
■管理委員会委員	岩坪陸男（文化財保護審議会委員）
■管理委員会委員	鮫島正孝（文化財保護審議会委員）

6. 研究論文

火合峯の町文化財指定に向けて

＝地域・民間団体そして文化財保護審議会による文化財の価値の再発見＝

南種子町文化財保護審議委員 鮫島正孝

はじめに

昨年8月「種子島を語る会」の鮫島安豊氏から、私どもの方に、西之表市の市政50周年を記念するイベントのひとつに、島を横断する「ノロシ」のリレーを組みたい、という申し入れがありました。

私共も、積極的にこれに応じることにしました。と申しますのは、特に島間地区の公民館が、史跡の保存に力をいれ、「火合峯」をはじめ、数ヶ所に、碑文を刻んだ顕彰の石を建てておりました。前会長の船川文一氏は、私どもと一緒に、西之表の小城ヶ原や大広野の「火合峯」をも視察し、保存を熱く語っておられましたし、現柳田館長も、大変積極的で、しかも行動的でありますので、私どもも、この熱意を是非実らせたいという思いをもっていたからであります。

また私どもは、「ノロシ」につきましては、これまでに、いくらかの経験を積んでおりましたので、これらの技術的検証をも兼ねて、これに協力することとしたのであります。

「地名研究会」を中心に、文化財保護審議委員をはじめ、島間地区公民館・集落公民館及び個人参加の有志に協力を呼びかけたところ、多くの賛同を得、思いもかけず、鹿銀文化財団の資金援助をも受けることもできまして、これまでになく、大きな取り組みに発展して、その結果、一定の成果が得られましたので、その経過や結果・総括を少しばかり報告したいと思います。



ノロシとは

天智天皇の663年、当時朝鮮に駐留していた日本と、同盟関係にあった百済の連合軍は、唐と新羅の連合軍と、白水江で戦い、大敗して日本に逃げ帰りましたが、以来、日本は、いつ大国唐と新羅の連合軍が、進攻してくるかに戦々恐々で、緊急に戦備を整えることになりました。

唐軍の進攻に備えて、大陸に近い北九州を中心に、城塞を置き、防人を配備して、戦備

を整えました。それらの本土防衛対策の1つが「ノロシ」であります。

日本では今は俗に、「狼煙」と書き「ノロシ」いいますが、公式には「烽」とか「烽燧」と書き、漢音では「ハウ」とか「ハウスイ」と申しますが、訓では「トブヒ」といいますけれども、ここでは以下「ノロシ」と呼ぶことにします。

この「ノロシ」は、九州の南西諸島から都まで、連珠のように繋がれ、遺漏なく正確に伝えるため、そのルートは複数設けられておりました。「ノロシ」は「瞬時にして百里を走る」といわれる速さと語られていまして、今流に申しますと、高速軍事通信ネットワークとでも呼ばれるべきものであります。

熊毛での「ノロシ」ネット

熊毛における「ノロシ」ネットは、まず口永良部の「番屋ノ峯」からの発信をうけ、屋久島では、宮之浦の「火立峯」と、島間の「火合峯」とが対応するほか、屋久島町役場のホームページで発見したのですが、屋久島町水道条令（平成19年10月1日）の簡易水道の給水域の中に「火立峯の一部」と記されている字句がありますので、「火立峯」があることがわかります。（水道課に問い合わせたところ、湯泊と小島のくらいとのこと）この「火立峯」が、多分南種子町西之の「相ノ峯」に対応する、東廻りルートであろうかと思えます。「相ノ峯」は、門倉岬を見下ろす丘で、渺々たる太平洋と、東シナ海を一望におさめ、屋久島からロケット基地の大崎、天候が良かったら中種子町の増田あたりまで眺望が広がります。

西廻りルートは、始め口永良部から送った情報が、宮之浦の「火立峯」、次に島間の「火合峯」へ、そして住吉の「火合峯」へ、最後に赤尾木の政庁を経て大広野の「火立峯」・國上の「國見山」へとリレーされたものと思われます。

おおまかに申しますと、熊毛におきましては、このように口永良部の「番屋ノ峯」から第一報が発信され、屋久島、種子島を東西に分け、最後に國上から九州本土に送られたと考えられます。

以上申しあげましたルートは、古代「ノロシ」跡と、近世の異国船対策の「火立番屋」跡とが、重複や近接しているため、区分は困難であります。

強いて区分をつけるとしたら、「火」系と、近世に使われた「番屋」系に分けられ、「番屋」系が、江戸時代の異国船対策に係わるものであろうといえそうに思います。

火合峯

島間には、由来不明の大きな山城があり、外に律の古刹「大光寺」跡、「大龍」という古い港に、中世由来と見られる不明の石塔群「大塚」もあります。

古代多祢國は、種子島と屋久島からなり、海を隔てた両島を統括するには、島間が最も地理的に便利であり、そのためここに国府が置かれたという説がある程であります。それは措いても、標高176mの岡に立つ火合峯の「ノロシ」は、郡域の重要部分をカバーするエリアを持ち、種子・屋久の中継地として重視されたと思われます。



火合峯（島間上方）

住民と「火合峯」

古代ノロシ跡といわれる「火合峯」^{ひやみね}は、火を焚いて合図を交わしたという伝説のほか、地元大久保集落では、昭和の時代になっても、公園地と呼び、集会やレクリエーションの場として使われ、また戦後は、共同墓地が構想されるなどの経緯をもつ、集落の表徴的な土地であります。

島間（上妻）城跡からは、直線距離にすれば、僅かに400mあるなしの近さで、正面眼下に島間岬と島間港、左に屋久島の全景、右は住吉岬から、遥かに大隅半島・薩南諸島が望める絶景の地であります。

「火合峯」への道の接続

昔も今も、公の施設は、幹線の道筋に沿うところに設けられます。「火合峯」入口に接続する道は、今でこそ幅3m余の小径であります。これは「元禄絵図」に載る旧街道（幹線）であります。

この道筋は、北から古い港の「稲子泊」、島間（上妻）城の「犬の馬場」を抜け、旧「本妙寺」前から「上の坊」を通り、「グンマラ（軍原で軍団の駐屯地?）」を経て、「火合峯」入口に達します。（余談であります。が、「元禄絵図」で種子島を一周するこの旧幹線を復元すれば、元禄時代における地域の景観が、明らかになる部分があるかと思えます。）

「ノロシ」再現の準備

南種子地名研究会では、十数年ほど前、島間の「火合峯」と西之表市の「住吉岬」・宮之浦の「火立峯」の三点間を「ノロシ」で結ぼうと、実験を試みたことがありました。

実験は、住吉の方には、会員を宛て、宮之浦は上屋



久町役場職員と、宮之浦在住の渡辺博之さんに依頼しました。

宮之浦の「火立峯」の現地は、海際で非常に低く、島間の「火合峯」はビッシリ立込んだ竹藪で視界を妨げられるため、やむなく宮之浦を旧城跡の上まで登った路傍の空地に設定し、島間を火合峯の少し南で、標高が同程度の「焼屋」の町道脇に変更して実験を行いました。しかし炉の燃焼に失敗して、煙を断念し、ライトの点滅で合図を交わしました。夜間は、車のライトが普段に見られる場所ですから、何の問題ありませんでした。

また、数年前のことですが、「種子島ロケットマラソン大会」事務局の要望により、国上・住吉・火合峯・長谷・大曲・茎永を結び、ロケット基地の「カーモリの丘」からの「ノロシ」を合図に、マラソンをスタートさせるなどの経験を重ねていました。

昨年1月に、西之表市の市政施行50周年記念事業に関わる「のろし再現実行委員会」の「のろし再現」の申し入れを受け、これに呼応することにしましたが、これは先にも申し上げましたが、私どもにとっては、これまで蓄えてきたノウハウを、公式に試みる好機でもあったわけであります。

昨年1月以降は、総てがこの準備に宛てられ、炉の構造決定と加工、設置場所の実地調査、メインとなる火合峯の整備と造塔・取り付け道路の整備、現地島間地区公民館及び大久保集落公民館及びボランティアへの協力依頼、現地リハーサル等々を行いました。



完成したのろし台

現地の整備には、ニガ竹山の刈り払いやバラス撒布は、教育委員会にやってもらい、用地の削平や造塔を、建設業者の上浦建設に格安で施工してもらいました。

尚、造塔に使った大石は、昔から現地の野面に散乱していた転石（古代ノロシの炬台に使われていた）ですが、これらの石は、戦後農地の開墾作業で、ブルドウザーを使い、地中に埋めていたものを、今回掘り上げたものです。

これらの費用には、鹿銀文化財団からの補助金30万円が当てられました。

リハーサル

7月12日土曜日、西之の「相ノ峯」・島間田尾の「番屋峯」・上方の「火合峯」間でリハーサルを実施、但し、西之の「相ノ峯」は、竹藪で視界が取れないため、野大野の「高鼻」に変更しました。

リハーサルは、それぞれ肉眼で、相互に確認ができ、基本的な準備を完了しましたが、ただ心残りは、あがった煙が心細いことだけでありましたので、イベント当日の火炉は、

ドラム缶を3層にすることとしました。

ノロシ再現

8月23日、当日は西の風強く晴れ、大気は強くカスム。

参加団体は、南種子地名研究会・町教育委員会・文化財保護審議委員のメンバー・島間地区公民館・大久保公民館・南種子町郷土館講座受講生・その他。

火災予防に、南種子町消防団に要請して消防車1台を準備。

午後1時、旧中平中学校に集合。打ち合わせ。準備した補助機材はケイタイ・眼鏡・ホラ貝。

午後2時30分、4班に分け、「高鼻」・「番屋峯」・「火合峯」にそれぞれ配置。以後、若干の時間差をもって、煙を揚げる。



西之野大野の高鼻（電波塔）



島間田尾の番屋峯

しかし、天候状態は最低、すべてがカスミ、屋久島も住吉も模糊として判別し難く、揚げた煙は、風が強いため、横に流れる。目の良い者のみがやっと、動く白いものを見る有様でありました。



**のろし確認の様子
(島間上方の火合峯)**



火合峯から見た番屋峯の「ノロシ」

総括

参加団体：地名研究会・南種子町教育委員会・町文化財保護審議委員会のメンバー・島間地区公民館・大久保地区公民館・郷土研究講座のメンバー

個人：約30名

1. 折角のイベントは、折悪しく悪天候に阻まれ、僅かな徴を得るに止まりました。しかし、天候さえ正常なら、現在の装備で十分に通用する確信を得たことは大きいと思います。
2. 現代（大気のカスミ）の気象状況では、天空をバックに、山頂から揚げる煙は、当地では期待できません。谷間や緑濃い木立をバックにする方が効果的であることと、各「ノロシ」間の距離をうんと短縮することが必要とわかりました。
3. 折角掘り起こした文化財が、いざ保存となると大変です。自治体も財源が充分にあるわけではありません。対象にもよりますが、関係地域が限界集落かあるいはそれに近く、大半が老人所帯という地域に、管理の負担が掛かるようでは、保存は成り立ちません。

火合峯でも、負担つきなら受け入れられないという意見が初めからあったのです。そこを僅かばかりの比較的若い年齢層に働きかけ、なんとか受け入れてもらえているところですが、無理な態勢は長続きしません。検討が必要です。